

平成 25 年  
1 月 30 日

# 病害虫発生予報 2 月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

農薬は専用の保管庫に鍵をかけて保管するなど、  
適切に管理しましょう。

## < 目 次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

イチゴ：うどんこ病，ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

促成ピーマン：うどんこ病，アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

促成キュウリ：灰色かび病・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

促成トマトの黄化葉巻病について・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

【その他の病害虫】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4  
促成トマト，促成キュウリ

### II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

本文に記載されている薬剤は平成 25 年 1 月 16 日現在のものです。  
最新の農薬登録内容は，（独）農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」（[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)）で確認することができます。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。  
茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445  
予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。  
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

イチゴ

#### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病株率は平年より高く（本年値 7.6%，平年値 3.6%）、発生地点率は平年よりやや高い（本年値 56%，平年値 32%）。また、発病果率は平年よりやや高い（本年値 0.7%，平年値 0.2%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ④ 発病の予防には、硫黄のくん煙処理が省力的で有効である。
- ⑤ ミツバチ導入及び天敵放飼後の薬剤防除は、ミツバチ及び天敵への影響に十分注意する。
- ⑥ 薬剤によっては、果実が汚れる場合があるので、十分注意する。

（平成 25 年 1 月 29 日発表 病害虫速報No.7 参照）

#### 2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、被害葉率（本年値 26.8%，平年値 7.0%）、発生地点率（本年値 78%，平年値 43%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一薬剤の連用を避ける。
- ③ ミツバチ導入及び天敵放飼後の薬剤防除は、ミツバチ及び天敵への影響に十分注意する。

## 促成ピーマン

### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病度<sup>\*</sup>は平年より高く（本年値 12.5，平年値 3.2），発生地点率は平年よりやや高い（本年値 75%，平年値 49%）。

※発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため，発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため，できるだけ葉は取り除き，ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。
- ④ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合，天敵への影響に十分注意する。

（平成 25 年 1 月 29 日発表 病害虫速報No.7 参照）

### 2. アザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在，寄生花率は平年より高く<sup>\*</sup>（本年値 30.5%，平年値 13.8%），発生地点率は平年並である（本年値 50%，平年値 62%）。

※1花あたりの寄生虫数は現在のところ10頭未満であり，果実に被害を及ぼす虫数ではない。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。また，各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は，薬液が葉裏や花にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合，天敵への影響に十分注意する。

## 促成キュウリ

### 1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① この時期に例年発生は認められないが、本年は一部圃場で発生を確認した。
- ② 1月下旬現在、発病果率は平年より高く（本年値 0.7%、平年値 0.03%）、発生地点率は平年よりやや高い（本年値 17%、平年値 3%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が多湿になると発生が助長されるので、換気、暖房等を行い、ハウス内が多湿にならないように注意する。
- ② 花落ちが悪い花卉や罹病部は早急に取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 発生が多くなると防除が困難になるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ④ 薬剤は、薬液が葉裏等にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。



### 促成トマトの黄化葉巻病について

[現在の状況]

- ① 1月下旬現在、平年並～やや多い発生である。なお、圃場により発生量にばらつきがある。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病が認められた株は、伝染源となるため早期に抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、株を腐熟化する等してから処分する。
- ② 媒介虫であるタバココナジラミを防除する際は、寄生する葉裏に十分薬液がかかるよう、下方から吹き上げるよう丁寧に散布する。
- ③ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内の除草を徹底する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	予報内容	発生概況及び注意すべき事項
トマト 促成	灰色かび病	発生量：平年並	1月下旬現在，平年並の発生である。
促成 キュウリ	うどんこ病	発生量：平年並	1月下旬現在，平年並の発生である。
	ミナミキイロ アザミウマ	発生量：やや多い	1月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ミカンキイロ アザミウマ		

## II. 今月の気象予報

### 関東甲信地方1か月予報

(予報期間 1月26日から2月25日)

気象庁(1月25日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 1月26日(土曜日)から2月1日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに40%

<2週目の予報> 2月2日(土曜日)から2月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<3週目から4週目の予報> 2月9日(土曜日)から2月22日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。